



年 組 名前

道新で
ワークシート道産米17年輸出
1000トン突破

日本食ブーム アジア・米国向け好調



国の貿易統計によると、2017年の道産米輸出量(道内港分)は、前年比4%増の1000トンとなり、初めて千トンを超えた。日本食ブームを背景にアジア圏や米国で需要が順調に伸びたため。石狩市の精米工場

が道内初の中国向け輸出施設に指定されるなどさらなる増加が見込まれるが、道産米価格は上昇傾向で、販路拡大に向けてはコスト削減が課題になりそうだ。国産米の輸出量は産地別統計がなく、国の貿易統計を基に道が道内港の取扱量を発表し、目安となっている。輸出量は12年は70トンで、5年間で14倍に増えたことになる。

17年の輸出先内訳(金額ベース)は香港が50%、米国20%、シンガポール13%、台湾12%など。北海道の食のブランド力が高いアジアでの売れ行きが好調という。

中国へコメを輸出するには、神奈川県指定精米工場を通さなければならないため、道内港からの中国向け輸出はゼロ。だが、9日の日中首脳会談でホクレン

パールライス工場(石狩市)を輸出施設に指定することが決まり、ホクレンは中国

で市場調査を行い「販売ルートの開拓に取り組む(米穀事業本部)考えた。

石狩管内新篠津村のコメ農家、田中哲夫さん(62)は、

主食用米の作付けを昨年より2割多い15畝に増やした。増加分は米国や中国などに輸出する予定で「将来にわたって生産を続けるために売り先の選択肢を増やしたい」と話す。

今後の課題は価格だ。海外での道産米の流通は、富裕層向け飲食店が中心で、シェア拡大にはカレー店や回転寿司店、市販用など中価格帯への売り込みが欠かせない。作付面積の減少や飼料用米への転作で米価は高値が続く。特に道産米は国内の卸業者や食品メーカーからの引き合いも増えており、「国内企業の注文を断ってまで輸出に回すのは難しい」(札幌の卸業者)との事情もある。

コメ輸出の道内最大手「Wakka Japan(ワッカ・ジャパン)」(札幌)は道内外で比較的价格の安い品種の試験栽培を行っており、佐藤陽介(セネラルマネジャー)は「道内農家の収益を確保しつつ安いコメを供給する仕組みをつくりたい」と話している。(長谷川裕紀)

2018年5月29日朝刊2面(記事は再編集しています)

①2012年と2017年の道産米の輸出量はそれぞれ何トンですか。

2012年【 トン】

2017年【 トン】

②近年、道産米の輸出量が増えた理由は何だと考えられますか。

③新篠津村の農家の田中哲夫さんが、米国や中国などに輸出するために米の作付けを増やす理由は何ですか。